

いわさきちひろと堀文子 童画の世界

安曇野ちひろ美術館



いわさきちひろ『青い鳥』(世界文化社) 1969年

1918年生まれ。青春時代を戦争の中で生きぬき、戦後は童画に向き合ったいわさきちひろと堀文子。二人に焦点をあてた「いわさきちひろと堀文子 童画の世界」展が長野の安曇野ちひろ美術館で開かれています。

古い原画が発見され

展覧会のオープニングトークでは長年、堀文子の画業を支えた中島良成さん(ナカシマアト)と、いわさきちひろの息子である松本猛さん(ちひろ美術館常任顧問)がそれぞれ語りました。中島さんは亡くなった

堀さんの自宅を整理する中、絵本『青い鳥』(1969年)の原画を発見したと、今回の展覧会が初公開だと明かしました。絵は約60年前に描かれたとは思えないほど色鮮やか。ちひろの『青い鳥』の原画も同年作で、同じ場面を描いていますが、

松本さんは表現の違いをこう話しました。

「堀先生は文章に誠実にそのシーンを描き、それを一枚の絵に仕上げたという意識が強かったと思う。鳥の配置、大きさやその他を緻密に計算し、額縁の中に小宇宙を描き込もうとしている。ちひろは子どもものあふれるような喜びや心理を描こうと、絵の世界が外へ



女性運動でも活躍 上:1955年の第1回日本母親大会記念手ぬぐい。絵は堀文子、字は平塚らいてう。13万枚普及され、初の大会の財政を支えた。下:1962年の第8回日本母親大会でちひろが絵を描き、同年、新婦人のよびかけ人に。(平塚らいてう・女性運動資料室)

個性が花開く絵本づくり

ふたりは戦後すぐから子どものための出版の仕事を始め、1950年代のちひろの絵には、先に日本画家として活躍していた堀の影響が感じられるものも(左)。50、60年代はふたりの作品が絵雑誌の同じ号に掲載されることもたびたびあったといいます。

新たな絵本づくりを目ざした至光社の武市八十雄との出会いは、ふたりにとって決定的でした。自然への深いまなざしを向ける堀は『き』『みち』『ちひろは』『あかちゃん』など自作の絵本シリーズを作成し、両画家の個性がいかに発揮された作品は国内外で高い評価を得ていきます。

平和への共通の思い

ともに東京・山の手の大空襲で家を焼け出され、堀は兄弟を戦争で亡くすなど過酷な戦争体験をしています。戦後は「女性の自立や二度と戦争を起してはならないという共通した意識のもとにふたりは生きていた(松本)」と言うように、それぞれ平和運動やジェンダー平等に関する婦人雑誌に作品を描き続けます。

1973年、ちひろは命を削るようにして絵本『戦火のなかの子どもたち』を描き55歳で早逝。堀は70年代に日本画の制作に専念すべく絵本を離れますが、90歳を過ぎても九条の会の集会に向き、戦争につながる動きを厳しく批判、100歳まで描き続けました。



堀文子『トッパンの絵物語 青い鳥』(新装版フレール館) 1969年(堀文子作品は一般財団法人堀文子記念館蔵)



堀文子 キンダーブック『おたんじょうび』(フレール館) 1956年



いわさきちひろ『ひとりできるよ』(福音館書店) 1956年

編集部から

米国産生ジャガイモ輸入解禁問題では、初めて知ることが多い。農業もなくなり、農家が苦勞して育てた国産イモの自給率は約7割。低い国産を食べ続けたい。(か)



折り紙でハロウィーン

北海道旭川市 藤原郁美

旭川支部ニュータウン班の折り紙小组で、「可愛いから」と作りました。

(☆風景、人物、動植物、9条グッズの写真をお寄せください。Eメールでも可)



に加え、そのつど溶きのぼす。残りの牛乳も加え、ラップをせず600ㇼで2分加熱し、取り出してよく混ぜる。1分～1分30秒加熱してよく混ぜ、とろみがついたら塩、こしょうを加える。④トースターの天板に食パン2枚をのせ、③の半量を塗り広げ、ハムと①をのせる。残りのパンを重ね、パンの上面にホワイトソースを塗り、チーズをふり、トースターで7～10分焼く。■1人分450ㇼ、塩分2.6ㇼ

簡単につくれるホワイトソース。グラタンやドリアにも。材料(2人分)食パン(8枚切り)4枚、ロースハム4枚、好みのキノコ100ㇼ、タマネギ1/2個、粉チーズ大さじ2、オリーブ油小さじ1、ホワイトソース(バター15ㇼ、薄力粉小さじ4、牛乳180ㇼ、塩小さじ1/4弱、こしょう少々)作り方 ①キノコ類は食べやすく切り、タマネギは薄切りにし、オリーブ油を熱したフライパンで水分が飛ぶまで炒める。②耐熱ボウルにバターを入れ、ラップをせず電子レンジ(600W)で30～40秒加熱して溶かす。薄力粉を加え、泡立て器でなめらかになるまでよく混ぜる。③牛乳50ㇼを大さじ1ずつ②

〈月1回〉

旬レシビ

たっぴりきのこのクロックムッシュ

管理栄養士・料理家

金丸絵里加